

モード Mode は語る

中野 香織

「真実」隠す着用マナー

レギンスは完全に市民権を得たのかと思っていた。

レギンスの上にオーバーサイズのセーターやチュニックを重ねるといった女性や子供の着こなしはいたるところで見かけるし、数年前からは、Kポップのアイドルの影響もあって男性用レギンスが「メギンス」として普及している。

デニム製でスリムジーンズのように見える「ジェギンス」は、トルコの会社が登録した商標名だが、大人気を受けて英語の辞書入りまで果たした。

モード界のレギンスも進化している。バレンシアガは2017年春夏シーズンに靴と一体になったシュー・レギンスを発表

進化するレギンス

し、ジャンバティスタ・バリは17~18年秋冬のパリコレクションで、ナイキのレギンスにジャケットを合わせてエレガントに表現した。

それほどの定番になっていたはずのレギンスだが、3月末、ちょっとした騒動が起きた。アメリカのユナイテッド航空が、レギンスをはいた少女2人を搭乗拒否したことがツイッターで拡散され、非難が殺到したのだ。ユナイテッド側は声明を出し、「該当者たちは社員向けの特典航空券の搭乗者であり、会社のドレスコードに従う必要がある。一般のお客様のレギンスは歓迎です」との旨を説明した。

それでも、レギンスが一部の服装規制



靴とレギンスが一体となったバレンシアガのシュー・レギンス

の対象になっていることが明るみに出たことは興味深かった。デザイナーのジル・サンダーは、「もし私に権力があったなら、レギンスを禁止するわ」と語っているが、状況によっては今もそのような見方があることは覚えておきたい。

「酔っ払いと子供とレギンスは真実を語る」という英語の標語が書かれたステッカーを見たことがある。この場合の「レギンスの真実」とは赤裸々な身体の凸凹のことであろう。スリムパンツとレギンスの違い、それはまさしくこの赤裸々感の有無なのだ。政治の世界では「オルタナティブ真実」(＝うそ)が堂々とまかり通ることに対して警戒すべきだが、レギンス着用時においては、むしろ「真実」を鮮明にせず、オルタナティブ真実を演出することを心がけるほうが、よきマナーとなる。(服飾史家)